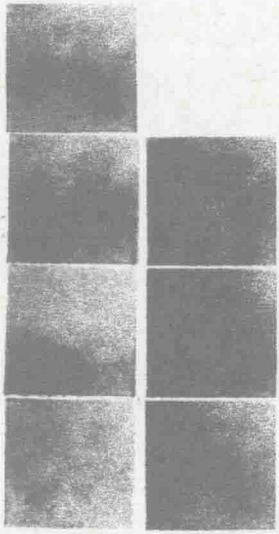
日本人の原点を見つめなおす

第三部

原始仏教は日本教と日本を救えるか？



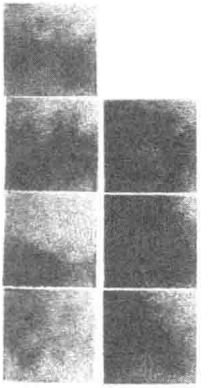
後藤広志
Goto Hiroshi

角川学芸出版

日本人の原点を見つめなおす

原始仏教は日本教と日本を救えるか?

第三部



後藤広志
Goto Hiroshi

角川学芸出版

角川図書出版
KADOKAWA

日本人の原点を見つめなおす　第三部
原始仏教は日本教と日本を救えるか?

2014年 10月25日　初版発行

著　者　後藤広志

発行者　郡司　聡

発行所　株式会社 KADOKAWA
http://www.kadokawa.co.jp/

編　集　角川学芸出版
東京都千代田区富士見2-13-3　〒102-8177
http://www.kadokawagakugei.com/
03-5215-7831（編集）　電話 03-5215-7836（営業）

印刷所　株式会社フクイン

製本所　株式会社フクイン

装　丁　芦澤泰偉

本文組版　有限会社レディバード

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁本はご面倒でも、下記KADOKAWA読者係にお送りください。
送料は小社負担でお取り替えいたします。古書店で購入したものについては、お取り替えできません。
電話049-259-1100（9：00～17：00／土日、祝日、年末年始を除く）
〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保550-1

©Hiroshi Goto 2014 Printed in Japan
ISBN978-4-04-621327-3 C0095

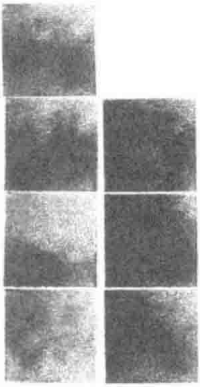
目次

はじめに　3
1. ゴータマ・ブッダのさとり—原始仏教による分析（1）　7
2. ゴータマ・ブッダの教え—原始仏教による分析（2）　25
3. 大乗仏教とやまと心　61
4. 道元と吉田兼好　83
5. 空体語・空名・言霊—日本語の本質　111
6. 二人称だけしかない—日本教の特異性　129
7. 認識できない歴史の連続性—日本教の問題点　147
8. おわりに—原始仏教は日本教と日本を救えるか？　167
あとがき　176
参考文献　179

日本人の原点を見つめなおす

原始仏教は日本教と日本を救えるか？

第三部



後藤広志
Goto Hiroshi

角川学芸出版

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はじめに

前著『日本人の原点を見つめなおす〔第二部〕— 暗黙の信仰と人間の精神』では、一神教を中心とした宗教と哲学の違いを体系的に考察し、既存宗教の信仰とは異なったメカニズムで人間の精神に内発的に生まれる暗黙の信仰（暗黙の宗教）という概念を提示した。しかし、仏教に代表される多神教の世界については十分な検討を加えておらず、特に歴史的に日本人に大きな影響を与えてきた仏教についての考察はほとんど行っていなかった。

そこで本書では、前半部で原始仏教とは何かを説明し、それが暗黙の宗教であるという理解を確認したうえで、大乗仏教と原始仏教との相違点を分析する。続いて大乗仏教を受け入れた日本人の受けとめ方を整理してやまと心（日本人の精神）との関係を考察する。後半部では大乗仏教が日本人に溶け込んだ理由である日本語の特徴を手

がかりとして、日本人の精神構造とそれを反映した暗黙の宗教、すなわち日本教の特異性や問題点を浮き彫りにする。

本書の副題は、「原始仏教は日本教と日本を救えるか？」である。一見平和そうでありながら、実は多岐にわたる危機に直面している日本の現状とその将来を慮（おもんぱか）ったとき、暗黙の宗教（暗黙の信仰）という共通点をもつ原始仏教と日本教がうまく融合できるか否かが日本そのものの将来を左右する重要な鍵になると私は考えている。そういう私の心情を副題に込めさせてもらった。

目次

はじめに　3
1. ゴータマ・ブッダのさとり—原始仏教による分析（1）　7
2. ゴータマ・ブッダの教え—原始仏教による分析（2）　25
3. 大乗仏教とやまと心　61
4. 道元と吉田兼好　83
5. 空体語・空名・言霊—日本語の本質　111
6. 二人称だけしかない—日本教の特異性　129
7. 認識できない歴史の連続性—日本教の問題点　147
8. おわりに—原始仏教は日本教と日本を救えるか？　167
あとがき　176
参考文献　179

1. ゴータマ・ブッダのさとり
―原始仏教による分析（1）
――Enlightenment of Gautama Buddha - Original Buddhism Review（1）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

仏教を知るためには、開祖である釈迦すなわちゴータマ・ブッダ（624BC-544BCまたは566BC-486BC）がどのような人物であったのかを理解することが不可欠である。そこで、本章ではその端緒を開くため、いわゆるゴータマ・ブッダのさとりとはどのようなものであったのかを原始仏教の資料を分析することにより明らかにしてみたい。

まずはじめに、原始仏教について前著〔第二部〕で示した宗教の定義に基づいてその特徴を明らかにすることから始める。ちなみに原始仏教とは、パーリ語（中期インドの文語）で記述された原始仏典に基づくゴータマ・ブッダが生存していた時期にもっとも近い時代の仏教と規定しておく。

暗黙の宗教である原始仏教（Original Buddhism as a Tacit Religion）

原始仏教の一番重要な概念である教義は、〝ダンマ〟（真理：dhamma〈パーリ語〉）

である。そして、ダンマから帰結される〝四諦〟（四種類の聖なる真実：ariyasaccāni〈パーリ語〉）を踏まえた〝八聖道〟（八種類の正しい道：ariya aṭṭhaṅgika magga〈パーリ語〉）に従うことが行動規範である。その実践のためには、自分自身をよく知り他人に頼らず修行（自己修練）を行うことが、（現代風にいう）教育の基本である。修行は最終的にダンマをさとって〝ニルヴァーナ〟（やすらぎ：nibbana〈パーリ語〉）にいたることを目指すが、それは目的ではなく結果である。

さらに、いかなる神をも信仰するということがない。ゴータマ・ブッダは宗教者ではなく、〝瞑想の人〟あるいは〝智慧を愛する者〟（Philosopher）であり、語るを得ないダンマの追究に成功した歴史上の人物である。つまり原始仏教とは、暗黙の宗教の一形態なのである。

では、原始仏教が暗黙の宗教であるという根拠を原始仏典にみられるゴータマ・ブッダ本人の言葉とされるものを中心に検証してゆこう。

ゴータマ・ブッダがさとったダンマ（真理）とは
（What is the Dhamma〈Enlightenment of Gautama Buddha〉？）

もっとも重要な点であるゴータマ・ブッダがさとったとされる〝ダンマ〟（真理）とはいったい何であったのか、ゴータマが三十五歳のころさとりを開いた直後の様子を描写した原始仏典の記述から探ってみよう。以下、原始仏典の引用はすべて岩波文庫の中村元（はじめ）による日本語訳を基本とした。さらに必要に応じてインターネット上に公開されているパーリ語の原文やそれに対応する英訳、漢訳なども参照し、仏典に対応した岩波文庫の書名も併記した。なお、〝ダンマ〟という言葉は、これ以降、特に断りがない限り中村の訳に従って〝真理〟と表すことにする。

わたしはこのように聞いた。或るとき尊師は、ウルヴェーラーで、ネーラン

ジャラー河の岸辺で、アジャパーラという名のバニヤンの樹の根元にとどまっておられた。初めてさとりを開かれたばかりのときであった。

そのとき尊師は、ひとり隠れて、静かに瞑想に耽(ふけ)っておられたが、心のうちにこのような考えが起こった。――

「わたしのさとったこの真理は深遠で、見がたく、難解であり、しずまり、絶妙であり、思考の域を超え、微妙であり、賢者のみよく知るところである。①ところがこの世の人々は執著のこだわりを楽しみ、執著のこだわりに耽り、執著のこだわりを嬉しがっている。さて執著のこだわりを楽しみ、執著のこだわりに耽り、執著のこだわりを嬉しがっている人々には、〈これを条件としてかれがあるということ〉すなわち縁起という道理は見がたい。またすべての形成作用のしずまること、すべての執著を捨て去ること、妄執の消滅、貪欲(どんよく)を離れること、止滅、やすらぎ（ニルヴァーナ）というこの道理も見がたい。だからわたしが理法（教え）を説いたとしても、もしも他の人々がわたしのいうことを理解してくれなければ、わたしには疲労が残るだけだ。わたしには憂慮があるだけだ」と。

実に次の、未だかつて聞かれたことのない、すばらしい詩句が尊師の心に思い浮んだ。

「苦労してわたしがさとり得たことを、
今説く必要があろうか。
貪りと憎しみにとりつかれた人々が、
この真理をさとることは容易ではない。②
これは世の流れに逆らい、微妙であり、
深遠で見がたく、微細であるから、
欲を貪り闇黒に覆われた人々は見ることができないのだ」と。

尊師がこのように省察しておられるときに、何もしたくないという気持に心が傾いて、説法しようとは思われなかった。

そのとき〈世界の主・梵天〉は尊師の心のなかの思いを心によって知って、次のように考えた、――「ああ、この世は滅びる。ああ、この世は消滅する。実に修行を完成させた人・尊敬さるべき人・正しくさとった人の心が、何もしたく

ないという気持に傾いて、説法しようとは思われないのだ！」

ときに〈世界の主・梵天〉は、〔中略〕梵天界から姿を消して、世尊の前に現われた。

そのとき、〔中略〕尊師に向って合掌・敬礼して、世尊にこのように言った、

「尊い方！　尊師は教え（真理）をお説きください。幸ある人は教えをお説きください。この世には生まれつき汚れの少ない人々がおります。かれらは教えを聞かなければ退歩しますが、〔聞けば〕真理をさとる者となりましょう」と。③

〔中略〕

尊師はさとった人の眼によって世の中を見そなわして、〔中略〕見終わってから、〈世界の主・梵天〉に詩句をもって呼びかけられた。

「耳あるものどもに甘露（不死）の門は開かれた。

〔おのが〕信仰を捨てよ。④

梵天よ。人々を害するであろうかと思って、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com